

「さして、んじゃ浜○ちゃん、整備を開始しようか」

「は、はい……」

「あゝ、緊張しなくてもいいよ、僕達がちゃんと整備してあげるからね」

「そうそう、体の奥の奥までね、うひひひひ」

「……………」

ぐる
ぐる……

「さして、それじゃあまず胸部の

状態を見たいから服を捲くりあげてね」

「えっ……？」

「服捲くり上げて、胸がよく見えるように」

「で、でも……」

「提督から僕等の言うことを聞くように言われてるんですよ？」

ほら、早くして」

「は、はい……」



「うひよお！すげえ巨乳だぜ！」

「うおー、マジだぜ、浜○ちゃんとても駆逐艦とは思えないな」

「うう……」

「マジたまんねえ、ううっ、むしゃぶりつきてえ……」

「おいおい焦るんじゃねえよ、時間はたっぷりあるんだからよ」

「じゃー浜○ちゃん、スカートの方も脱いでくれるかな」



「えっ……」

「スカート、下の方も整備しなくちゃ

いけないからね」

「は、はい……」

うひよお

「あつ、何を」

「—ビリッ、ビリッ」

「きゅっ—」

「あ、ごめん、つい破っちゃった。

でもお〇んこの方も早く検査しないと

いけないから、ごめんね」

「ああつ、ううつ、嫌あ……」

「ふーむー、見た感じはキレイなピンク色だね、

特に問題は無いかな」

「やつ、やあつ、そんなトコ……見ちゃ……」

「恥ずかしいと思うけど我慢してね、

整備は大切だから」

「ううつ……」



「味はどうかなつと.....」

「んあああつ！」

「ぺちや、じゅぷ、じゅるっ、じゅっ」

「あつ」

「やあ.....」

「ああつ、ううん、はあつ、だめえ、

そんなトコ.....舐め.....ああつ！」

「ちよつと舐めただけで愛液がもう溢れだしてるね、

浜○ちゃんは感じやすいのかな？」

「そ、そんなコト.....」

「お、おい、早くしてくれよ.....」

お、俺もう我慢できねえよ.....」

「まったくしょうがないな、んじゃ浜○ちゃん

ちよつと早いけどお○んこの詳しい

調査に入るね」

「ぞくぞく」

「ぞくぞく」

「ちよつと」

「あつあつ」



「んじゃ浜○ちゃん、浜○ちゃんのお○んこにち○ぼ入れさせて
もらうからね」

「えっ、だっ、駄目ですっ、そんなのっ！」

「ごめんね、でもこれも整備だから、
行くよ〜」

「ああっ、いやっ、だめっ！」

くしゃっ
くしゃっ

がく
がく

やっ

ん
ん



—ずぶぶぶつ

「んああああっ！」

「おっ、おっ、入った」

「あ、やっぱり浜○ちゃん、処女じゃないんだな」

「そりゃそうだろ、処女は提督がぼっちり

頂いちゃってるさ」

「ちっ、提督はいいよな」

「まあそう言うなよ、俺等にだってこうして

ちゃんと回してくれてるんだからよ」

「ちげえねえ」

「ああっ、ううっ、いや、いやあ……」

「じゃ動くよ」

んんんん

んんんん





「ああっ、そんな……中に……」
「ごめんごめん、あんまり気持ち良すぎて抜くの忘れちゃった」
「お、おい、早く代わってー!」
「ほいほい、んじや浜○ちゃん、お○んこの
検査まだまだあるけど頑張ってね」
「ああ……」

あーっ♡

あーっ♡

あーっ♡

あーっ♡

ぬっ♡

ぬっ♡



「も、もう我慢できねえ、俺、回でお願い」
「ずちゅっ」

「んんんっ」
「うわっ、浜○ちゃんの」

「んんっ、んっ、ふうんっ、
うううんっ」

「おおっ、ち○ほ喉えたら
ますます締まってきやがったぜ。
やっぱり浜○ちゃんはち○ほ好き
なんだな」

「んんっ、うううんっ、んっ、
んっ、んっ」

「ああっ、そんなに番動かしたら
俺、もう・・・」

「こ、こっちももう限界だ、
出すぞっ」

「んんんっ！」

「んんっ」

「んんっ」

「んんんっ」
「んんんっ」
「んんんっ」

「んんんっ」

「んんんっ」

「んんんっ」
「んんんっ」
「んんんっ」

「あっ、はっ、あっ、ああんっ、あっ、あっ」

「へっへっへっ、ま〇こも最強だね、やっほ浜〇ちゃんはこのおっぱいがたまんねーよな」

「やっ、あっ、だめっ、強く・・・」

「おんじゃ・・・」

「そんなこと言っただけでこぼれるのが好きなんだろ、ほらっ」

「あっ、やっ、あうんっ、あっ」

「へっへっ、おっぱいいじったら

ま〇こがますます縮まりやがる」

「あっ、やあんっ、らっ」

「あっ、やあんっ、らっ」

ぐんぐん

むいっ

むいっ

ぐんぐん

はあ♡

「浜〇ちゃんはホント淫乱だな、おらっ、そろそろイクぞっ」

「ああっ、はあっ、ああんっ、あっ、あっ」

イクっ、私もっ・・・



—じゅぽっ、じゅぽっ、ずぽっ、ずぽっ

「あっ、あっ、はあんっ、あっ、あうん、だめえ、お○んこ、壊れちゃううう……」

あっ

ぐぐぐ

はあんっ

いっ

壊れたりしないよ」

「大丈夫だって、浜○ちゃんの淫乱ま○こはこれくらいじゃ

「あっ、あっ、ああっ、いっつ、はあっ、あっ、あう」

「それが証拠にこんだけヤっても、まだぎゅうぎゅうく

締め付けてくるよ、ホント淫乱だなあ浜○ちゃんは」

「ああうんっ、あっ、あっ、だめっ、もう、イクっ、またイっちやうっー」

「お、俺もイくから、浜○ちゃん、一緒につ！」

ずっちゅ

ぬるり
ずっちゅ





「うっ、うんっ、んんうっ、んううんっ」

「ぐちゅ、ぬちゅっ、ずちゅ、ずぶっ」

「うっ、うおっ、結構出したけど、流石にこれ」

ラストかな」

「あ、俺も」

「俺もだな」

「んじゃ最後は盛大にみんなをぶっかけど」

行くか」

「おっけー」

「んっ、ふううっ、んっ、んぶっ、んううんっ」

「じゃ、じゃあ、浜〇ちゃん、イクよっ、」

みんなの精液受け取ってね」

「だ、出すぞっ」

「イクっ！」

「うっうんっ、うんっ」

んっ

うん

あう
ゆう
うん

あう
ゆう
うん

あう
ゆう
うん

んんん

ずっ
ずっ
ずっ

んん



「あつ、はあつ、あつ、あうんっ、はあつ……」

「あ、出した出した」
「んじゃ浜○ちゃん、整備はこれでおしまひ、全部問題なしてって提督に報告しておいてね」

「じゃ、次の整備の時もよろしくな」
「へっへっへ、楽しみがまた増えたぜ」
「ああつ、ううん……」

あ……♡

あ……♡

うん

うん